
操り眼で
義家族
ハーレム
～母妹と母の親友と
叔母と僕との歪んだ関係～




美佐子!!
あたしの息子を養子にしたいってどういうこと!?
KOSEKI
落ち着くまでって十年はいくらなんでも長すぎでしょって話よ
しかも優子あなた離婚したんでしょ？それって落ち着いたって言うの？
あたしはこっちが落ち着くまで遼を預かって欲しいとは言ったけどそんなこと頼んだ覚えはないわよ!!
ちっとお母さん落ち着いて…


遼くんの気持ちを考えてるようには見えないんだけど？
それは…遼には悪いことしたと思ってるけど…！
あたしは母親よ！一緒に住むのにそれ以上の理由がいる!?
遼！あなたはどう思ってるの!?
すぐに答えは出せないですよ母さんの言うこともわかるしでも美佐子さんにも今日まで育ててもらった恩がありますし…
えっ
…あれが私の兄さん…
ぼんやり記憶はあるけど…なんだろ不思議な雰囲気の人だな…
母は前の夫と離婚して父と再婚した時父と折り合いの悪かった前の夫との子供である遼さんを親友だった小関美佐子さんに預けていたそうだ
先月父との離婚が成立したのを機にこうして遼さんを迎えに来たわけなんだけど…
でも正直無理あるよね…


美加も彼の様子に違和感があるのね
千佳叔母さん
こんな状況なのになんだか落ち着いてるなって
よく見ているわねうろたえてるような芝居をしているから大抵の人は騙されると思うけど
彼には少し注意した方がいいわね
うん…
二人とも気がついたらもうこんな時間ですよ今日はここまでにしましょう
せっかくだから今日は泊まっていってくださいそこの二人もいいでしょ？
え？あ、はい


美加ちゃんも悪かったね こんなことに付き合わせて
いえ…
別れた時君はまだちっちゃかったから覚えてないだろうけど会えて嬉しかったよこれから仲良くできるといいね
あ…
お…おやすみなさい
えっとトイレどこかな…それにしても広い家
遼さんと美佐子さんずっとここで二人で暮らしてたのか
そこはちょっと羨ましいかも…
こんな時間に誰だろ遼さん？
？
!?


ああっ!!
ああ…いいっ…もっとおもっといっぱい突いてエ…ッ
ああ
あっ
おぁっ
ふふっ…
えっ!?
美佐子さん?なに?なんなの?
くふぅんっ
お客さんが泊まってるってのに少しは我慢できなかったんですか美佐子さん?
はあ…っあっ…あああっ
ああっ


全くしょうがないな…
美佐子さんがここまでいやらしくなるとは思わなかったですよ
あっ
ぬろ～
はあっ
だからよ…っ
あっ
ああっ
あんっ
ぴんっ
優子が一つ屋根の下にいる時に…遼を私のものにできていると思うと…ああんっ
むにゅ
あはぁっ
いやぁ…今は今はママって呼んでぇ♡
あっ
あっ
あっ
ハアッ
ハアッ
ビクッ
ビクッ
ハアッ
あっ…ああんっ
はははっますます変態ですねママっ!!
ああっ♡
ズッ
オッチェ
オッチェ
たぷっ
たぷ


ああっだめぇ
イクッ…
いくうっ
出して…っ
中にいっぱい
出してええっ
あっ
ハァ
ハァ
はっ
あっあああっ!!
ビクッ
ビュっ
ブシッ
ブボッ
トキ
トキ
トキ
おはよう
おはよう
遼
ビクっ


どうしたの美加ちゃん顔色が少し良くないね
ひっ!!
いっいえっなんでもないですっ
ここには何も怖がるようなことはないよ楽にして
何…?
まだ頭の中には嫌な感じが残ってるけど…
緊張がほぐれて…落ち着いてきた…
落ち着いた?おかしな子ねえ
そうだ母さん後で話があるんだけど
そうなのよ今朝からずっと様子が変で
大丈夫?
いえあの…ほんとに大丈夫ですから


えっ
私たちと一緒に
暮らしてくれるの!?
やっぱり血の繋がった
者同士で暮らすのが
自然な事ですしね
嬉しい…
これでやっと
望んでいた暮らしに
戻れる…
…
それで一つ
お願いが
あるんだけど
僕はみんなと
この家で一緒に
暮らしたいと
思ってるんですよ
じょ…
冗談でしょ
そんな事できる
わけ…
冗談?
ヨロ…
スッ
ひ?!
僕は本気だよ
母さん
ドクン
ムギュッ


あっ
母さんは僕に償うべきことがあると思うんだよ
ひっ
あっ…それは…あっ遼には悪いことしたと思ってるけど…
でもこんな…
ああ
ああだめっ…あああっ
あはっ
はああっ


ああっ
だめえぇっ…
そんなことされたら…
あああっ
ビクッ
ビクンッ
ちゅぴっ
にゅるんっ
戸惑ってるわね
私もそうだったでもすぐ慣れるわ♡
あぁん
み…美佐子…ッ!?
あっ
ムニュ
ムニュ
ムニュ
受け入れちゃえばいいのよこれは優子が望んでいることなの
そんな…
はっ
びくっ
にゅるっ
はあ
私は…あああっ
あ…いやあっ
は…
はあっ…ああああ…っ
ガクッ
ガクッ


はあ
はあ
はあ…
んんっ
ハッ
ハッ
あむ
くちゅ
ああ
私…遼のを
…
うむぅ
ふうっ…うぅん
ンフッ
ふふっ
すごいでしょ
ハァ
ハァ
んん…
にゅるっ
クチュッ
美佐子
あなたいつも
こんな…
ハァ
んっ
はあ
はあ
そうよ
こんなことも
してあげるん
だから
もじ
もじ
おにゅっ


ねえ遼はこれ好きよねぇ？
そんな…あ…あたしもするぅ…
あぁん
うふふ優子ったら腰まで動かして
んふっ
いやぁ…そんなの美佐子だって
あむぅ
んむ
ああ
はあああ…遼の熱い…っ
それじゃ母さん受け止めて…っ
んん
っ!?


ああんっ!!
んぐぅ…っ
ぐぶぅ…ッ!!
けほっ
はああ…あっ
ぷしゅっ
ぴゅっ
ぴゅっ
ガクッ
ガクッ
ふーっ
ふーっ
んふーっ
くちゅ
くちゅ
はふ
うふふふっ
優子もうこっちは
受け入れる気満々
ね♡
ちゅぷっ
ちゅぷ
んあっ
はあっ
遼…っ
それじゃあ
いくよ
母さん
ああ…
だめ…そんな
…
ああ
ああ
あたし…息子
と…っ
ずぢゅっ
ぢゅ
グリグリ
クチュ
クチュ


ああっ！
はぐウゥううっ!!
はぁっ
遼っ…私も
私も可愛がってぇ
あっ…
ずぶぶっ
んふっ
ふっ…
はぁあ…っ
あっ
はあっ
ああっ
ああっ
いいっきもちいっ
んくっ
ぴちゃ
くちゅ
すっちゃ


カチャ
姉さんっ!?
遼君?! あなた 何をしてるの!?
やあ千佳叔母さん そろそろ来る頃だと 思ってましたよ
美加ちゃんは もう少し後に する予定だったけど まあいいか
遼さん…?
あなたが人の心を 操る才に長けた 危険な人間だってことは 薄々わかってたけど… まさか母親にこんなことを…
ああ叔母さんは 僕をそういう サイコパス的な 人間だと 思ってたんだ
ち…違うって 言うつもり? こんな…
ねえ もっと


僕は心になんか興味ありませんよ
特に女の心なんてものにはね
ナッ
息子を自分の都合で好きに扱えるアクセサリーとしか思ってない女
そもそも女って奴が他人の心に無関心じゃないですか
ス…
あ…あなた私に一体何を…？
かつての親友へのライバル心からその子供を自分の意のままにしようとする女…全く反吐が出ますよ
ギュッ
こんな風に生理反応を操ってやるだけですぐそれに従う心なんかにどんな価値があるって言うんだ
あっ…
ああっ
クチュ
ちゅく
叔母さんはなかなか聡明な人だ自分が操られている自覚はあるんですね
ヴゥゥ…
くっ…
こっ…この…っ


それじゃいつまで体と心の乖離に耐えられるか頑張ってもらいましょうか
あっ
ムニュウッ
ああっ
ね…姉さんやめて…っ!!
ああぁんッ!!
きゅうう
はあ
はあ
ドックン
ドックン
なに…これぇ…
君にも余波が来ちゃったか敏感なんだね
はあ
はあ
君の相手をするのはもう少し待ってね
ま…待って!


わかってる…
だから…
きっと私も遼さんを苦しめた「女」の一人だって
みんなを…これで許してあげて…遼さ…
お兄ちゃん
ああっ!?
いいだろう!!
やあぁっ
それが本心なのか汚らしい言い訳なのか見極めてやる!!


さあ美加もあたし達と一つになりましょ♡
あっ…
お母さん…っ
やあ
ぬぷぷ
みんな…やめなさい…っ
あっ
ああ
なんで…手が止まらない…っ
いくぞ美加…っ
あひっ
うぐうううっ!!
ずんっ!!
たぷん


あっあっ
はあっあああっ
あっ
おにい…ちゃんっ
ああっ
かはっ
あああっ!!
だめェ…っ
そんな
されたら…
はああっ
あつお母さんっ
美佐子さんも
…やめてぇ


ンフッ
遼お…っ♡
はふっ
はあっ…ああっ
ハッ
ハァ
ハッ
あっ
あっ
あんっあんっ
あ
パチン
ぐぢゅ
パチン
ぐぢゅ
たぷっ
たぷっ
あっあっ
そんなっ…
私…私い…
あっ
あッ
はっ
はあ
だめ
お兄ちゃん
私…変
変なのおっ
はっ
あッ
はあ
ムニ
ムニ


はあっ
はあ
僕は！
お前と引き離された
事が一番辛かったんだ
美加!!
はあっあ…っあああっ!!
ぐちゅっ
ずちゅっ
ぱちゅっ
あんっ
あっ…あんっ
あっ
ハアッ
ハアッ
ハアッ
おにい
…ちゃんっ！
初めて！
初めてできた
本当の家族だと
思ったのに!!
だから僕は
お前を取り戻す！
醜い女どもと同じに
させないために!!
なる…
なるから
ほんとの家族に
…
あっ
はあっ
だから
…っ
はっ
ハッ
たぷ
たぷんっ
あっ
あっ
あっ
ズブッ
ズボッ
ズブッ


みんな…いっしょ…に…っ！
ああっ遼っ…あたしもあたしもぉっ!!
あっ
あっ
あん
ハッ
アッ
ハッ
ハッ
ビクッ
ビクッ
ああっ
あっ
あんあっ
あッあはあアッ
ドカッ
びゅくんッ
びゅっ
ゴプッ


兄にとって私もまた「女」の一人でしかないのだろうか


あれから私達はこの家で一緒に暮らしている


それはもう私自身にもわからなくなってきているけど
ハアッ
ハアッ
ハアッ
あッ
お兄ちゃんっ♡
はっ
あっ
あっ
あはっ
ああ…いいっ
気持ちいいっ
もっと
もっと突き
上げてえっ♡
ずっちょ
ぐぢゅ
ずっちょ
ぐぢゅ
でもいつか
あっ
あっ
あっ♡
あっ♡
イクッ♡
イッちゃうっ♡
いつか心が
届くこともあると
信じている
あっ




KOSEKI





















































